

児童が造形的な活動を思い付いたり、表したい ことを見付けたりする学習指導に関する研究

—指導の手立てを明確にする題材構想シートの活用を通して—

《補助資料目次》

【補助資料1】「造形遊びをする」題材構想シート・・・・・・・・・・	1
【補助資料2】「絵や立体工作に表す」題材構想シート・・・・・・・・・・	3
【補助資料3】「造形遊びをする」題材『クミクミックス』学習指導案・・・・・・・・・・	5
【補助資料4】「絵や立体工作に表す」題材『ねん土マイタウン』学習指導案・・・・・・・・・・	15
【補助資料5】児童を対象に行った質問紙調査・・・・・・・・・・	26

令和3年2月10日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育担当
福田勝雄
吉田澄江
小原ひとみ
赤坂裕子
佐藤真

図画工作科題材構想シート（造形遊びをする活動）

題材名	対象学級	年	組	児童数	男	女	計	名
① 題材の目標								
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等				学びに向かう力、人間性等			

② 対象や事象を捉える造形的な視点 〔共通事項〕ア	④ 児童の思いや活動(ウェビング)							
形、形の感じ (形状、大きさ、長さ、形の柔らかさ)								
色、色の感じ (明るさ、鮮やかさなど)								
材料の性質 (触った感じ、硬さ、柔らかさ、量感)								
表面の材質感 (冷たい、暖かい)								
形や色の組合せによる感じ (色の組合せによる優しさ)								
立体感、遠近感、奥行き感								
動き (方向感、時間的な変化の動き、バランス)								

③ 造形活動	⑤ 指導の手立て							
並べる	置く	つなぐ	結ぶ	積む	乗せる	○問い (文言を書き出す) ○環境 (必要な材料や用具の準備や配慮を書き出す)		
重ねる	かぶせる	丸める	ねじる	にぎる	あける			
切る	やぶる	貼る	巻く	敷く	広げる			
照らす	かざす	移す	入れる	混ぜる	吊るす			
ひたる	もぐる	落とす	巻く	たらす	寝転ぶ			
さす	立てる	包む	剥ける	分ける	選ぶ			

図画工作科（造形遊びをする活動）の題材構想の手順

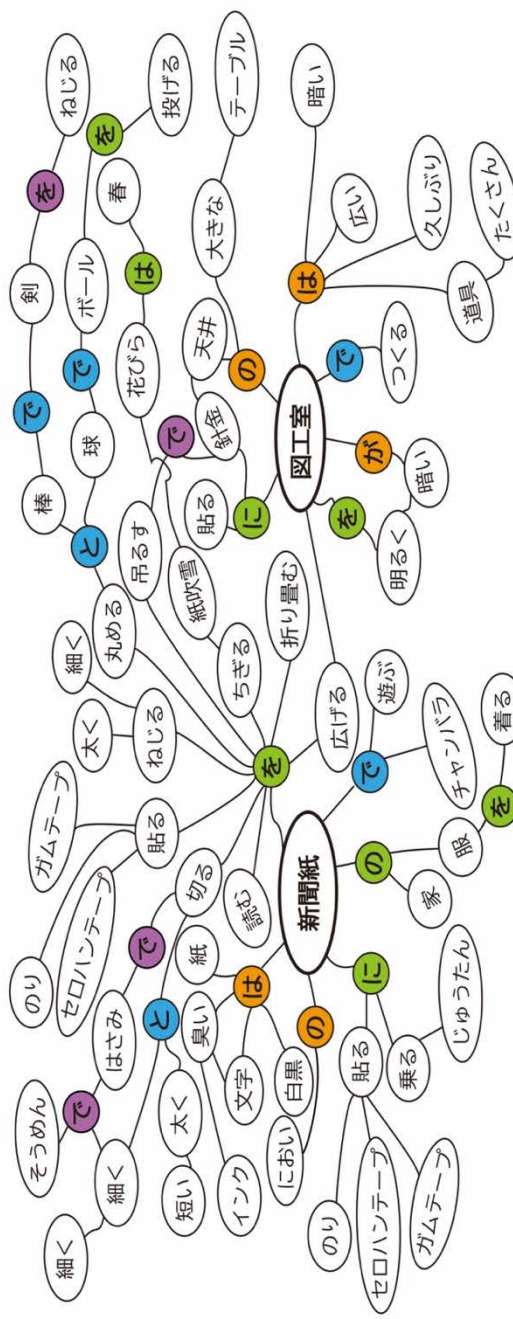
作成手順

- ① 学習指導要領の各学年の目標や内容を踏まえて「題材の目標」を作成する。
- ② 表面①の 題材の目標の「知識及び技能」の欄に記載されている材料や「思考力、判断力、表現力等」の欄に記載されている「対象や事象」(材料や作品、出来事など)を確認する。
表面②の「対象や事象を捉える造形的な視点」により、児童が直感的に対象の特徴を捉え、同時に自分なりのイメージをもちながら活動することを確認する。
- ③ 表面①の題材の目標に記載されている「材料や用具」から予想される造形活動を表面③の表から確認する。その他、予想される造形活動や活動に必要な材料と用具を加えていく。

- ④ 目の前の児童の活動を想定しながら、材料やテーマといった対象や事象を中心に置いて、助詞を用いながら予想される児童の考えや活動などを書いていく。
(発想や構想をしたり、材料や用具を使い、表し方を工夫したりしていく活動へとイメージを広げていくが、技能から発想することもあり、必ずしも一方方向ではないことに留意する。)

- ⑤ 児童の考えや活動を関連付けた事柄の間に、児童の思いや活動を豊かに広がりのあるものにする「問い」としてどんな問いかけができるか表面の⑤指導の手立てに書き出す。また、児童の考えや活動を保障するために必要な環境（材料や用具、場所など）についても書き出す。

④ 児童の思いや活動を想定した例(ウェビング)

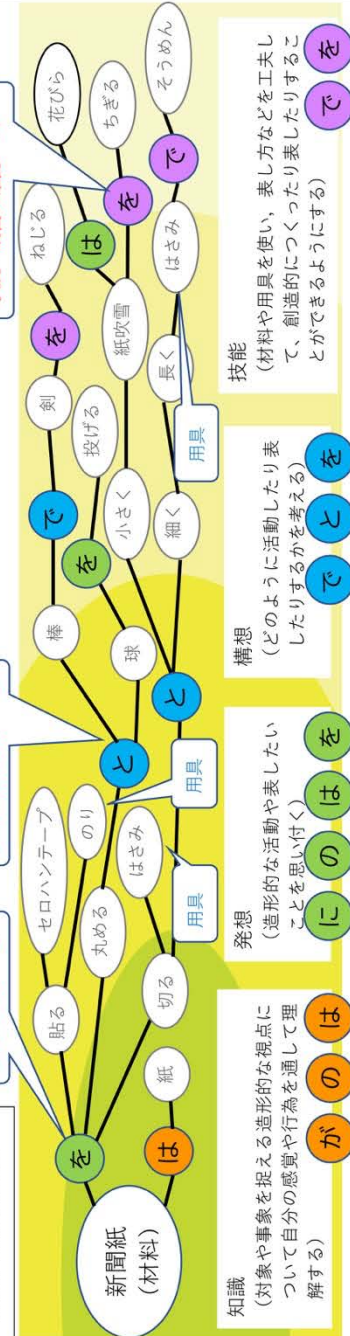


ウェビングから「問い」と「環境」の書き出し例

思考の促し *2

選択の投げかけ *3

状況・既習の確認 *1



知識
(対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解する)

発想
(造形的な活動や表したいことを思い付く)

構想
(どのように活動したり表したりするかを考える)

技能
(材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようになる)

⑤ 問いの種類と具体例

種類	内容	具体的な発問例
状況・既習の確認 *1	活動の進み具合、理解度、過去の学習内容等確かめる	紙吹雪をどうやってつくったのかな
思考の促し *2	表現や取組について問いかけ考えさせる	新聞紙を使ってどんな活動ができますか
選択の投げかけ *3	選択肢を示して考えさせる	新聞紙を丸めると棒の形になるかな、それともボール（球）の形になるかな

【補助資料 2】「絵や立体工作に表す」題材構想シート

図画工作科題材構想シート（絵や立体、工作に表す活動）						
題材名	対象学級	年 組	児童数 担当者	男 女 名、計 名		
① 題材の目標						
知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等		
④ 児童の思いや活動(ウェビング)						
⑤ 指導の手立て						
〇問い（文言を書き出す）		〇環境（必要な材料や用具、場所などの準備や配慮を書き出す）				

② 対象や事象を捉える造形的な視点 〔共通事項〕ア				
形、形の感じ (形状、大きさ、長さ、形の柔らかさなど)				
色、色の感じ (明るさ、鮮やかさなど)				
材料の性質 (触った感じ、硬さ、柔らかさ、量感など)				
表面の材質感 (冷たい、暖かいなど)				
形や色の組合せによる感じ (色の組合せによる優しさなど)				
立体感、遠近感、奥行き感				
動き (方向感、時間的な変化の動き、バランスなど)				

③ 材料や用具				
1・2 学年	土 バス	粘土 はさみ	木 のり	紙 クレヨン 簡単な 小刀
3・4 学年	木切 れ 小刀	板材 ノコギリ	釘 金づち	水彩絵 の具
5・6 学年	針金	糸のこ ぎり		

図画工作科（絵や立体、工作に表す活動）の題材構想の手順

作成手順

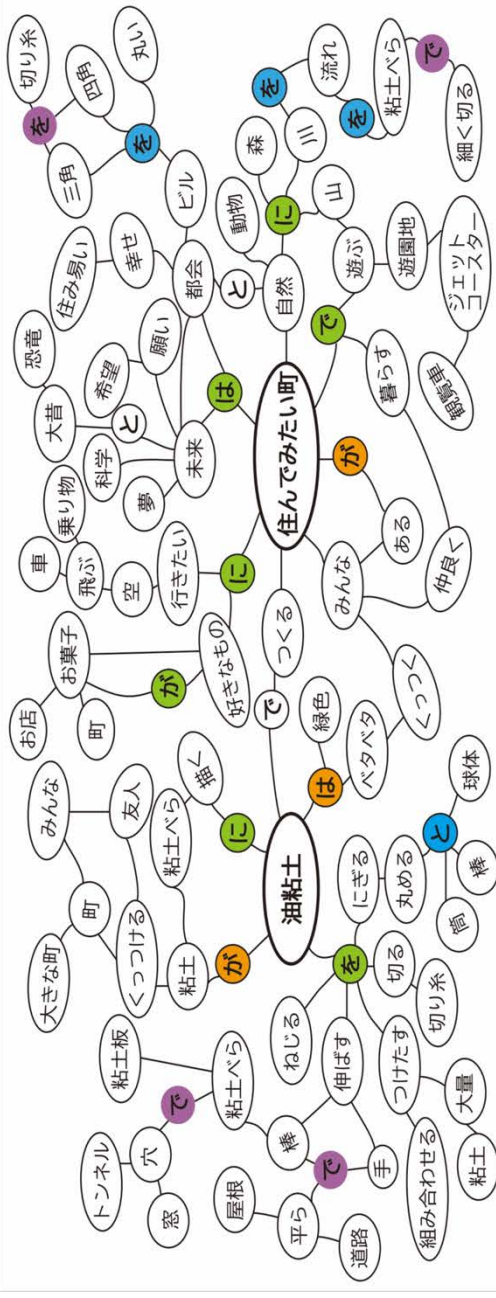
- ① 学習指導要領の各学年の目標や内容を踏まえて「題材の目標」を作成する。
- ② 表面①の 題材の目標の「知識及び技能」の欄に記載されている材料や「思考力、判断力、表現力等」の欄に記載されている「対象や事象」（材料や作品、出来事など）を確認する。
表面②の「対象や事象を捉える造形的な視点」により、児童が直感的に対象の特徴を捉え、同時に自分なりのイメージをもちながら活動することを確認する。

- ③ 表面①の題材の目標に記載されている「材料や用具」を表面③の表から確認する。また、③の表は、学習指導要領の内容の取扱いと指導上の配慮事項に記載されている「材料や用具」であるため、積極的に取り扱う。また、その他活動に必要な材料と用具を加えていく。

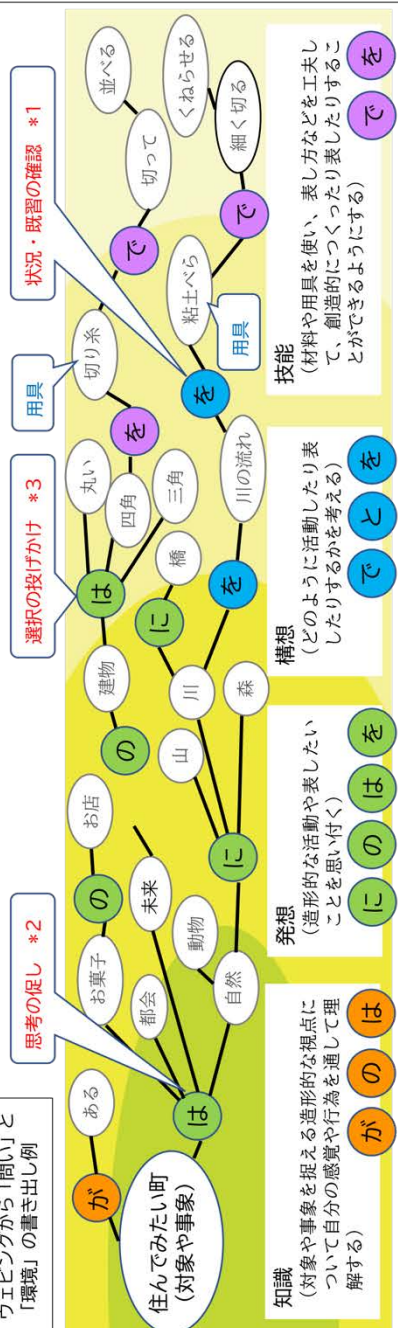
- ④ 目の前の児童の活動を想定しながら、材料やテーマといった対象や事象を中心に置いて、助詞を用いながら予想される児童の考えや活動などを書いていく。
（発想や構想をしたり、材料や用具を使い、表し方を工夫したりしていく活動へとイメージを広げていくが、技能から発想することもあり、必ずしも一方方向ではないことに留意する。）

- ⑤ 児童の考えや活動を関連付けた事柄の間に、児童の思いや活動を豊かで広がりのあるものにする「問い」としてどんな問いかけができるか表面の⑤指導の手立てに書き出す。また、児童の考えや活動を保証するために必要な環境（材料や用具、場所など）についても書き出す。

④ 児童の思いや活動を想定した例（ウェビング）



ウェビングから「問い」と「環境」の書き出し例



⑤ 問いの種類と具体例

種類	内容	具体的な発問例
状況・既習の確認 *1	活動の進み具合、理解度、過去の学習内容等を確かめる	川の流れをどのようにしてつくるのかな
思考の促し *2	表現や取組について問いかけ考えさせる	住んでみたい町はどんな町ですか
選択の投げかけ *3	選択肢を示して考えさせる	未来の町の建物はどんな形をしているのかな、丸いそれとも三角、四角

【補助資料3】「造形遊びをする」題材『クミクミックス』学習指導案

日 時：令和2年10月2日（金）2校時

6日（火）3・4校時

場 所：2日図工室、6日 プレイルーム

対象学級：北上市立江釣子小学校 3年1組

指 導 者：上 野 敏 明

研究担当者：福 田 勝 雄

1 題材名 クミクミックス

2 内容のまとめ

〔第3学年及び第4学年〕造形遊びをする

「A表現」（1）ア （2）ア 「B鑑賞」（1）ア〔共通事項〕（1）ア、イ

3 題材の目標

（1）自分の感覚や行為を通して、形の感じや形の組合せによる感じが分かる。

「知識及び技能」（知識）

段ボールカッターや段ボールの板などを適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

「知識及び技能」（技能）

（2）段ボールの板や組み合わせた形などを基に造形的な活動を思い付き、新しい形などを思い付きながら、どのように活動するかについて考える。

「思考力、判断力、表現力等」（表現）

自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、造形的な活動、いろいろなつくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

「思考力、判断力、表現力等」（鑑賞）

（3）進んで段ボールの板を組み合わせながら、思い付いたことを工夫してつくる学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

「学びに向かう力、人間性等」

4 題材について

（1）児童について

ア これまで材料として段ボールを扱ってきたとはいえないが、生活の身近にある材料である。段ボールは、波形の芯紙を厚紙で挟んだもので、クッション性がある。段ボールに何度も段ボールカッターを使って切込みを入れることでその手応えを感じ取り、材料や用具の扱い方に十分に慣れることができる。

イ 2学年時にカッターナイフを使った紙工作をしている。その際、刃物の安全な使い方について学んでいる。

ウ 中学年の児童には、友人とともに活動することを好み、交流し合いながら活動を思い付く姿が見られる。また、夢や願いを表現したり想像したりすることを楽しみながら次々に展開していくなどの姿も見られる。

（2）教材について

ア 段ボールの特性は、紙の向きにより強度や切りやすさが変わることである。縦目の場合は上下の力に強く、縦に切る場合は切りやすい。横目にした場合は上下に力を加えると折り曲げたり丸めたりすることができる。組み立てる場合は、切込みを段ボール板の両方に入れて

組み合わせることで立てたりつなげたりすることができる。また、厚みがあり丈夫な段ボールの特性から、バランスを考慮することで比較的容易に大きなものを構成することのできる題材である。そのために友達との協力が必要になる場面も多く、友人と関わりながら活動を進めることを通して、新しい形をつくりだすために必要な資質・能力を育てることができる。

イ 本題材は、発想したことやつくり方の工夫を仲間と互いに認め合いながら進めていく題材であり、この時期の児童に適している。

(3) 指導について

ア 題材の大まかな流れ

導入では、段ボール箱を板状に切り分ける活動を通して「段ボールカッター」の扱い方に慣れるとともに、段ボールの板からどんなものができそうかを想像する。また、組合せ方を考えながら、組み合わせることでどんな形になりそうかを想像を膨らませていく。展開では、段ボールの板を組み合わせでできた形の面白さを味わいながら、形を変えていくことを楽しむ。振り返りでは、自分や友達の活動を紹介し合いながら、互いのつくった形のよさや面白さを感じ取る活動を行う。

イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

導入では、段ボールに触れる時間を設けることで、これまでの生活経験で感じてきた段ボールの特性について明らかにしていく。また、切込みを入れて組み合わせる方法を紹介することで、活動の見通しを持たせていく。展開では、組み合わせでできた形からイメージを膨らませながら、形や表し方を工夫して活動を発展させていくことで表現への主体性を引き出すようにする。また、友人と作品をつなげたり、協力し合ったりしながら更に大きな形をつくる活動に促すために、広い空間で活動することを設定する。

ウ 研究との関わり

本研究は、児童が創造的に発想や構想する能力の育成を図る学習の充実を目的とし、発想や構想に関する事項の指導に当たって必要な手立てを明確にし、教員が題材構想を深めることができる題材構想シートを開発する【図1】。また、それを用いて、創造的に発想や構想をする学習の充実を図る学習指導の一例を示すことを目標に掲げている。児童は、幼い頃から、周りの人や身近なもの、自然などの環境に、自分から働きかけたり働きかけられたりしながら成長していく。この児童の潜在的な成長の可能性を引き出すためには、教員との関わりや環境との関わりが重要であると考え。そこで、指導の手立てを「発問」と「環境」の視点で考えていく。児童一人一人の造形表現の活動を豊かに広がりのあるものにする問いには、状況や既習を確認する問いや思考を促す問いなどがある。また、児童が働きかけたり働きかけられたりする環境には、場や用具、人や時間といった環境などが挙げられる。題材のテーマや材料といった対象や事象を中心に置き、児童の活動のプロセスをイメージしてウェビングを作成することで、児童が造形的な活動を思い付いたり、表したいことを見付けたりする学習指導に必要な手立てを明確にする。

本題材は、平面の段ボールの板を組み合わせることで立体的なものに変化する面白さを味わい、友だちと協力することで更に大きなものをつくる活動に展開していく。例えば、「切込みを入れた板を3枚組み合わせで立てる」「切込みを中心に入れて差し込む」「高い塔を建てたい」「横につなげて迷路のようにしたい」「組み合わせたら恐竜のようになった」な

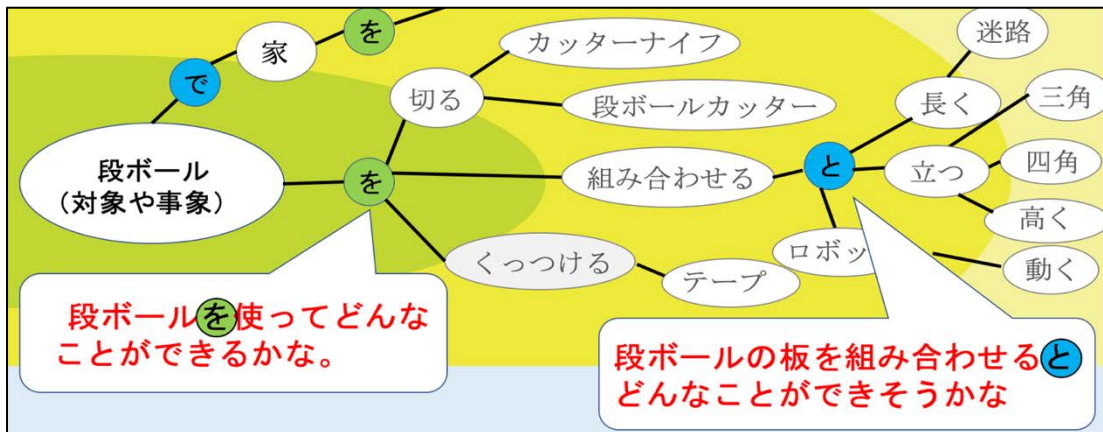
ど、自分の感覚や行為を通して形とイメージ、イメージと用具などつながりを大切にしながら指導していく必要があると考える。

[illegible]

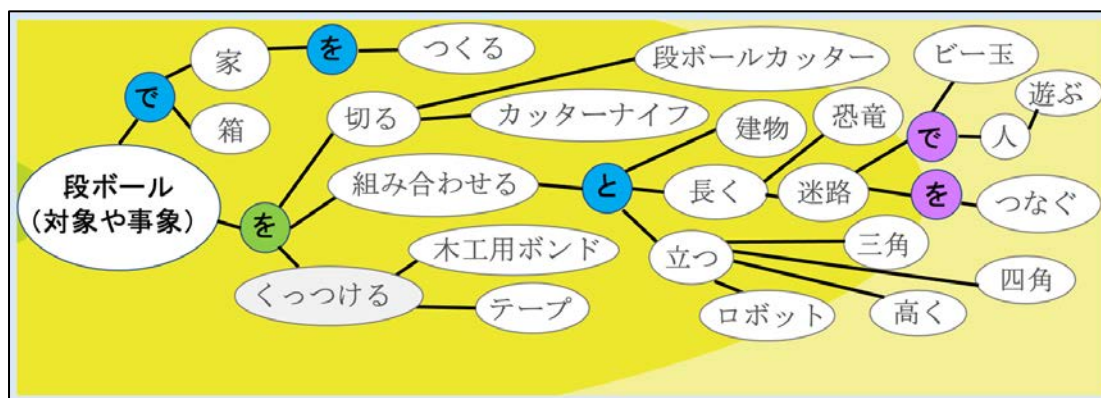
【図1】図画工作科題材構想シート（造形遊び）

題材の導入の組合せ方を知らせる場面で、「段ボールを使ってどんなことができるかな」と思考を促す問いを投げかけることによって、形に意識が向き、発想豊かに表現できるようにする。【図2】

また、「場の環境」として、建物や迷路など実際に活動できるような大きな空間を用意するため、プレイルームでの活動を計画する。【図3】



【図2】 児童の考えや活動をイメージしたウェビングの一部から発問を書き出したもの



【図3】段ボールを基に児童の考えや活動をイメージしたウェビングの一部

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 自分の感覚や行為を通して、形の感じや形の組合せによる感じが分かっている。 - 段ボールカッターや段ボールの板を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	- 形の感じや形の組合せによる感じを基に、自分のイメージを持ちながら、段ボールの板や組み合わせた形などを基に造形的な活動を思い付き、新しい形などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。 - 形の感じや形の組合せによる感じを基に、自分のイメージを持ちながら、段ボールを組み合わせてできた形の造形的なよさや面白さ、造形的な活動、いろいろなつくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わい進んで段ボールの板を組み合わせながら、思い付いたことを工夫してつくる学習活動に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画（3時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○段ボール箱の解体方法を知り、いろいろな形の段ボールの板をつくる。 ○段ボールでどんなことができるか活動を思い付く。	・段ボールカッターの基本的な使い方を知るとともに段ボールの特性を十分に味わうようにする。 ・刃先を触ったり、人に向けたりしないように安全指導を徹底する。 ・2枚の段ボールに板に切り込みを入れ、組み合わせるところを演示する。	【知・技】（知） 〔観察、対話〕 段ボールを切ったときの感覚や行為を通して、形の感じなどが分かっている。
2	○段ボールを使ってどんな組合せ方ができるか考えながら、面白い形になるように組み合わせる。	・穴を開けて通すなど、切り込みを入れて組み合わせること以外の活動が見られたら、全体に活動を紹介して、組合せ方を工夫するように促す。	【思・判・表】（表） 〔観察、対話〕 段ボールを組み合わせながら造形的な活動を思い付いている。 【知・技】（技） 〔観察、対話、作品〕 段ボールカッター、段ボールを適切に扱うとともに、切ったり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫している。
3	○自分や友達の活動から、段ボールを組み合わせてできた形の面白さを味わう。	・全体や部分など、いろいろな角度から見て、段ボールの組合せ方や形の面白さや自他の表現のよさを味わうようにする。	【思・判・表】（鑑） 〔観察、対話、作品〕 自分たちの作品の造形的なよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 【態】 〔観察、対話、振り返りシート〕 つくりだす喜びを味わい、進んで段ボールの板を組み合わせながら、思い付いたことを工夫してつくる学習活動に取り組もうとしている。

7 本時の指導（1時間目/全3時間）

（1）目標

段ボールの形や組み合わせた形の感じなどを基に、造形的な活動を思い付き、段ボールを切って形を変えたり組み合わせたりしながら、どのように活動するかについて考える。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (◇評価)	資料(教材教具)等
導入 15分	○段ボールの特性を知る。 ○段ボールカッターの使い方を知る。 ○段ボール箱を解体していろいろな形の板をつくる。	・段ボールを触った感じ、持った感じを捉えさせるとともに波目の向きについて気付くように促す。 ・材料に触れながら、段ボールの構造や切りやすい方向など特性を確認するとともに用具を安全な使い方を確認する。 ◇段ボールカッターを安全に使いながら段ボール箱を解体することができる。【知・技】(技) 〈状況の確認の問い〉 造形的な活動を思い付く「段ボールの板でどんなことができるか」と問いかける。	片面段ボール 段ボール箱 段ボールカッター 作業台
段ボールの板を(組み合わせながら、)いろいろな形をつくろう			
展開 20分	○段ボールの板でどんなことができるか活動を思い付く。	〈思考の促し〉 「ガムテープなどを使用せずに段ボール同士をつなげるにはどうしたらいいか「どんなことができるかな」と問いかける。 ・形の感じや形の組合せによる感じを基に、楽しみながらつくるように促す。 ◇段ボールを切ったときの感覚や行為を通して、形の感じなどが分かっている。【知・技】(知)	
終末 10分	○振り返りシートに記入する。	・いろいろな形の段ボールの板を組み合わせることによってできた形の面白さを大型テレビで紹介する。	大型テレビ 振り返りシート
振り返りの例 ・長い板を組み合わせることで高く積み上げることができました。もっと積み上げてお城を作りたいです。 ・どんどん組み合わせていったら迷路みたいになりました。もっと大きくして遊びたいです。 ・穴をあけてその穴に棒を通したら剣みたいになりました。次は、盾を作りたいです。			

7 本時の指導（2・3時間目/全3時間）

（1）目標

段ボールを使ってどんな組合せ方ができるか考え、面白い形になるように組み合わせたりしながら、形を変えていくことを楽しむとともに、段ボールを組み合わせでできた形の面白さを味わう。

（2）展開

段階	学習活動	指導上の留意点（◇評価）	資料(教材教具)等
導入 10分	○前時を想起する。 ○隣同士で自分のできた形を伝え合う。 ○組合せ方のよさを学級全体の前で紹介する。	・友人のつくった形のよさや面白さを感じ取れるようにいろいろな角度から見るように促す。 〈状況の確認の問い〉 組合せ方の工夫につながるように、「どのように組合せ方を工夫したのか」と問いかける。	ホワイトボード 大型テレビ
段ボールの板に切込みを入れて、面白い形になるように組み合わせよう			
展開 50分	○組合せ方を考えながら、活動を始める。 ○段ボールの向きや形、切込みの入れ方などを工夫しながら自分の思いに合わせて組み合わせる。	〈場の環境〉 広い空間の周囲に段ボールの板を用意し、互いの作品を見合えるようにする。 切込みを入れる作業用に椅子を用意する。 ◇段ボールを組み合わせながら面白い形を思いつくまで造形的な活動を思い付いている。 【思・判・表】（表） ・同じような思いの児童同士で工夫してつなげている様子を紹介し、ペアやグループで活動してもよいことを知らせる。 〈場の環境〉 ペアやグループでつなげたり組み合わせたりして、大きく作る場所を確保する。 ◇段ボールカッター、段ボールを適切に扱うとともに、切ったり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫している。 【知・技】（技）	図工室の椅子

終 末	○自分や友達の活動から、段ボールを組み合わせてできた形の面白さを味わう。 ○本時の振り返りを行う。	・全体や部分など、いろいろな角度から見て、段ボールの組合せ方や形の面白さや自他の表現のよさを味わえるようにする。 ◇自分たちの作品の造形的なよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 【思・判・表】（鑑） ・振り返りの視点を示し、振り返りシートに書くように促す。 ◇つくりだす喜びを味わい進んで段ボールの板を組み合わせながら、思い付いたことを工夫してつくる学習活動に取り組もうとしている。 【態】	大型テレビ 振り返りシート
30 分	振り返りの例 ・〇〇さんと一緒に組み合わせて大きなお城ができました。屋根を三角にして組み合わせることができて良かったです。 ・〇〇さんが板に穴をあけて棒を通して動くようにしていて良かったです。私も次は動くように組み合わせてみたいです。 ・丸い穴をあけたり煙突のようにしたりして組み合わせることができて、面白い形になりました。		

図画工作 ワークシート①

3年 組 番 名前

「クミクミックス」

段ボールの板を組み合わせながら、いろいろな形をつくろう

1. できた形に名前を付けるとしたら

--

2. 次の時間にやってみたいこと

--

3. 今日の活動で工夫したところ

4. ふりかえり

①段ボールを組み合わせて形をつくることができましたか

どれか1つに ○をつけよう	よくできた	まあまあできた
	あまりできなかった	よくできなかった

②今日のじゅぎょうでわかったこと、気づいたこと、思ったこと

図画工作 ワークシート②

3年 組 番 名前

「クミクミックス」

1. 友だちのできた形のよさやおもしろさを見合おう。

友だちの名前	友だちのさくひんのよいところ、おもしろいと思ったところ など

2. ふりかえり

①友だちのさくひんのよいところやおもしろいところを見つけることができましたか

どれか1つに ○をつけよう	よくできた	まあまあできた
	あまりできなかった	よくできなかった

②今日のじゅぎょうでわかったこと、気づいたこと、思ったこと

【補助資料4】「絵や立体工作に表す」題材『ねん土マイタウン』学習指導案

日 時：令和2年9月4日（金）、9日（水）

対象学級：北上市立江釣子小学校 3年1組

指導者：福田 勝 雄

1 題材名 ねん土マイタウン

2 内容のまとめ

〔第3学年及び第4学年〕絵や立体、工作

「A表現」（1）イ（2）イ「B鑑賞」（1）ア〔共通事項〕（1）ア、イ

3 題材の目標

- （1）自分の感覚や行為を通して、形の組合せによる感じが分かる。「知識及び技能」（知識）
粘土や切り糸などを適切に扱うとともに、前学年までの粘土や粘土べらなどについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
「知識及び技能」（技能）
- （2）住んでみたい町を想像したことから、表したいことを見付け、形を変えたり、組み合わせたりしながら、どのように表すかについて考える。「思考力、判断力、表現力等」（表現）
自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
「思考力、判断力、表現力等」（鑑賞）
- （3）進んで住んでみたい町を想像し、粘土で立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。
「学びに向かう力、人間性等」

4 題材について

（1）児童について

ア これまで材料として粘土を扱ってきている。粘土の特性は、一定の粘りがあり、丸めたり伸ばしたりすることが容易で、付け加えたり分けたりすることも簡単にできる可塑性という性質があることを学んできている。

イ 1学期に「切ってかき出しくっつけて」の題材を通して粘土べらに加えて、切り糸やかきべらなどの用具の取り扱いについても身に付けてきている。

ウ 中学年の児童には、友人とともに活動することを好み、交流し合いながら活動を思い付く姿が見られる。また、夢や願いを表現したり想像したりすることを楽しみながら次々に展開していくなどの姿も見られる。

（2）教材について

ア 本題材は、自分が住んでみたいと思う町を、実際の建物の形や、夢や願いから発想し、仲間と交流しながら粘土で立体に表す活動を通して、想像することを楽しみ、つくり方を工夫して表す力を育てる題材である。

イ 本題材は、夢や願いなどから発想したことやつくり方の工夫を仲間と互いに認め合いながら進めていく題材であり、この時期の児童の題材として適している。

(3) 指導について

ア 題材の大まかな流れ

導入では、住んでみたい町を想像しながら、建物や町にあったらいいなと思うものを考える。展開では、粘土の形や表し方を工夫して町をつくっていく。対話を通して友人と作品をつなげて、更に大きな町をつくる。振り返りでは、自分が町に入ったつもりでいろいろな視点で鑑賞し、作品のよさや面白さを感じ取る活動を行う。

イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

導入では、粘土に触れる時間を設け、固まった粘土を柔らかくすることともに、前学年までに学習したことを振り返る場面を設定する。また、言葉によるイメージを立体にすると様々な形が生まれることを通して、立体による表現への主体性を引き出すようにする。

製作場面では、隣同士で机を隣接することにより、自分の発想や構想を広げたり、互いの作品をつなぎ合わせたりして共同で製作する活動ができるようにする。

ウ 研究との関わり

本研究は、児童が創造的に発想や構想する能力の育成を図る学習の充実を目的とし、発想や構想に関する事項の指導に当たって必要な手立てを明確にし、教員が題材構想を深めることができる題材構想シートを開発する【図1】。それを用いて、創造的に発想や構想をする学習の充実を図る学習指導の一例を示すことを目標に掲げている。児童は、幼い頃から、周りの人や身近なもの、自然などの環境に、自分から働きかけたり働きかけられたりしながら成長していく。この児童の潜在的な成長の可能性を引き出すためには、教員との関わりや環境との関わりが重要であると考え。そこで、指導の手立てを「発問」と「環境」の視点で考えていく。児童一人一人の造形表現の活動を豊かに広がりのあるものにする問いには、状況や既習を確認する問いや思考を促す問いなどがある。また、児童が働きかけたり働きかけられる環境には、場の環境や用具環境、人や時間といった環境などが挙げられる。題材のテーマや材料といった対象や事象を中心に置き、児童の活動のプロセスをイメージしてウェビングを作成することで、児童が造形的な活動を思い付いたり、表したいことを見付けたりする学習指導に必要な手立てを明確にする。

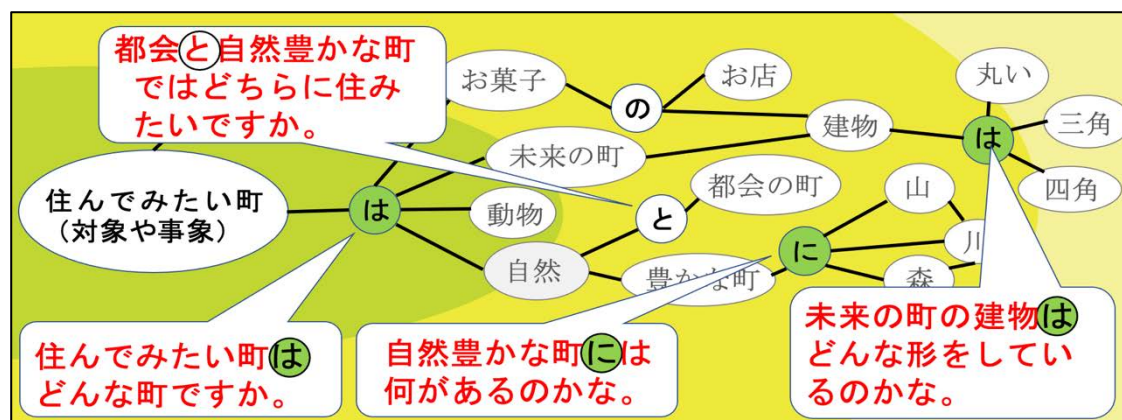
本題材は、住んでみたいと思う町を想像したことから表したいことを見付け、形の組み合わせの感じなどを手掛かりにして、心の中にある思いを形に託して表現する。例えば、「未来の町のイメージを背の高い直方体を並べて表してみたい」「細く伸ばして平らにしたら道路のような感じになった」など、自分の感覚や行為を通して形とイメージ、イメージと用具などつながりを大切にしながら指導していく必要があると考える。

図画工作科題材構想シート（絵や立体、工作に表す活動）																													
題材名	ねん土マイタウン		対象学年	年 組	児童数 男 14名、女 16名、計 30名 担当者																								
① 題材の目標																													
知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等																									
- 自分の感覚や行為を通して、形の組合せによる感じが分かる。 - 粘土や切り糸などを適切に扱うとともに、前学年までの粘土や粘土べらなどについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。		- 住んでみたい町を想像したことから、表したいことを見付け、形を変えたり、組み合わせたししながら、どのように表すかについて考える。 - 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。		進んで住んでみたい町を想像し、粘土で立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。																									
② 対象や事象を捉える造形的な視点 【共通事項】ア			④ 児童の活動のイメージ(ウェビング)																										
形、形の感じ (形状、大きさ、長さ、形の柔らかさ) 色、色の感じ (明るさ、鮮やかさなど) 材料の性質 (触った感じ、硬さ、柔らかさ、量感) 表面の材質感 (冷たい、暖かい) 形や色の組合せによる感じ (色の組合せによる優しさ) 立体感、遠近感、奥行き感 動き (方向感、時間的な変化の動き、バランス)																													
③ 材料や用具			⑤ 指導の手立て																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>土</th> <th>粘土</th> <th>木</th> <th>紙</th> <th>クレヨン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2 学年</td> <td>バス</td> <td>はさみ</td> <td>のり</td> <td>簡単な小刀</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3・4 学年</td> <td>木切れ</td> <td>板紙</td> <td>釘</td> <td>水彩絵の具</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5・6 学年</td> <td>針金</td> <td>糸のこぎり</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				土	粘土	木	紙	クレヨン	1・2 学年	バス	はさみ	のり	簡単な小刀		3・4 学年	木切れ	板紙	釘	水彩絵の具		5・6 学年	針金	糸のこぎり				○問い (文言を書き出す) ・住んでみたいまちはどんな町ですか。 ・自然豊かな町にあるものは何か。 ・未来の町の建物の形は、どんな形をしているのか。 など ○環境 (必要な材料や用具の準備と配慮を書き出す) ・住んでみたい町をつくっていくために机を合わせる。 ・粘土を高く積み上げた時に倒れないように必要な芯材となる竹串 ・粘土を平らにする棒状の用具		
	土	粘土	木	紙	クレヨン																								
1・2 学年	バス	はさみ	のり	簡単な小刀																									
3・4 学年	木切れ	板紙	釘	水彩絵の具																									
5・6 学年	針金	糸のこぎり																											

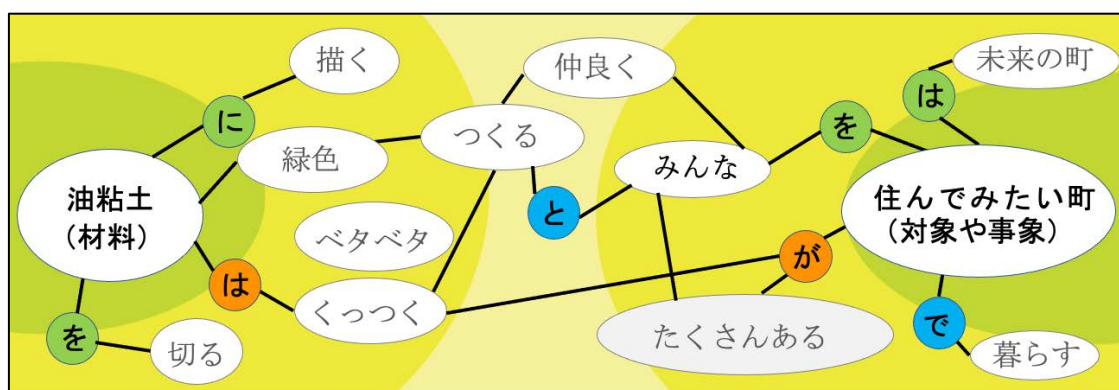
【図1】図画工作科題材構想シート（絵や立体、工作に表す活動）

題材の導入の住んでみたい町を想像する場面において、「〇〇の町の建物はどんな形をしているのかな」と思考を促す問いを投げかけることによって、形に意識が向き、発想豊かに表現できるようにする【図2】。

また、「場の環境」として、友人と町をつなげたり一緒につくったりする共同の活動に発展するように隣同士で机を合わせたり、互いの発想を認め合う場面を設定するなどして、楽しく活動できるようにする【図3】。



【図2】住んでみたい町を基に児童の考えや活動を書き出したウェビングの一部



【図3】油粘土と住んでみたい町とのつながりを書き出したウェビングの一部

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 自分の感覚や行為を通して、形の組合せによる感じが分かっている。 - 粘土や切り糸を適切に扱うとともに、粘土や粘土べらなどについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	- 形の組合せによる感じを基に、自分のイメージを持ちながら、住んでみたい町を想像したことから、表したいことを見付け、形や材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 - 形の組合せによる感じを基に、自分のイメージを持ちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わい進んで住んでみたい町を想像し、粘土で立体に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画（3時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○自分が住んでみたいと思う町を想像する。 ○粘土の形を変えたり、組み合わせたりしながら住んでみたい町にあったらいいと思う建物などを想像しながらつくる。	- 発問によって自分が住んでみたいと思う町の建物やあったらいいと思うものの形を意識しながら想像するように促す。 - これまで学んだ粘土の可塑性や用具として粘土べらや切り糸の使い方について思い出させながら、表したいことを見付けられるようにする。	【思・判・表】（発） 〔観察、対話、作品〕 住んでみたい町を想像しながら、表したいことを見付けている。

2	○友人と一緒につなげて、大きな町を作っていく。	・友人とつなぐ活動が見られたら、全体に活動を紹介して、共同して大きな町をつくるように促す。	【知・技】（知） 〔観察、対話、作品〕 町をつくりながら、形の組み合わせによる感じが分かっている。 【知・技】（技） 〔観察、対話、作品〕 表したいことに合わせて、粘土の形を変えたり、用具を使ったりして表し方を工夫している。
3	○自分が町に入ったつもりで鑑賞し、作品の良さや面白さを感じ取る。	・縮小した全身の写真を用いて町を散歩するように見たり空から見たりといろいろな角度から見て、町の面白さや自他の表現のよさを味わうようにする。	【思・判・表】（鑑） 〔観察、対話、作品〕 自分たちの作品の造形的なよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 【態】 〔観察、対話、作品、作品カード、振り返りシート〕 つくりだす喜びを味わい進んで粘土で住んでみたい町を表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

7 本時の指導（1時間目/全3時間）

（1）目標

住んでみたい町を想像したことから、表したいことを見付け、粘土の特性を生かし、形を変えたり組み合わせたりしながら、どのように表すかについて考える。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (◇評価)	資料(教材教具)等
導入 15分	○粘土に触れて、形を作る。 ○自分たちの住んでいる町の自慢を発表する。 ○自分が住んでみたいと思う町を想像する。	・材料に触れながら、粘土の特性を確認するとともに固まった粘土を柔らかくする。 ・自分たちの住んでいる町の発表から、題材のテーマである自分が「住んでみたい町」につながるようにする。 ・仲間の意見を認め合い、自由に想像できるようにする。 〈思考の促しの問い〉 粘土で表すときに、形に意識が向くように、児童の発言に対して「どんな形なのかな」と問いかける。	粘土 粘土べら 粘土板 竹串
ねん土をいろいろな形に変えたり、組み合わせたりしながら、住んでみたい町をつくらう			
展開 20分	○建物など町にあったらいいなと思うものを、粘土の形や表し方を工夫してつくる。	・形の感じや形の組み合わせによる感じを基に、楽しみながら町をつくるようにする。 〈状況の確認の問い〉 材料や用具を使って表し方を工夫するように「○○をどのようにつくるのかな」と問いかける。 ◇住んでみたい町を、粘土の特性を生かしてどのように表すか考えている。【思・判・表】(発)	
終末 10分	○ウェットシートで手を拭き、作品カードの記入を行う。	町の建物やあったらいいなと思うものを粘土によって、どのように工夫してつくったのか大型テレビで紹介する。	大型テレビ 振り返りシート
振り返りの例 ・お菓子の町に住んでみたいと思いました。そこで、私がいつも食べているお菓子をたくさん並べてみました。 ・あったらいいなと思ったことを思いついたけど、時間がなかったので、次の時間も作りたいと思いました。			

7 本時の指導 (2時間目/全3時間)

(1) 目標

住んでみたい町に合わせて、粘土の形を変えたり、組み合わせたりしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (◇評価)	資料(教材教具)等
導入 10分	○ 前時を想起する。 ○ 隣同士で町の自慢を伝え合う。 ○ 友人の作品のよさを学級全体の前で紹介する。	・ 友人のつくった町のよさや面白さを知ったり自分の町のよさを確認したりするために隣同士の机をつける。 〈状況の確認の問い〉 自らの作品の工夫につながるように、「どのように工夫して表しているか」と問いかける。	粘土 粘土べら 粘土板 竹串 大型テレビ
ねん土をいろいろな形に変えたり、組み合わせたりしながら住んでみたい町をつくろう			
展開	○ 町と町の間にあつたらいいなと思うものを、粘土の形や表し方を工夫してつくる。	〈場の環境〉 隣同士の作品がつながるように机をつけた状態のままにする。 ・ 粘土板の間を道や道路などで工夫してつなげている様子を紹介する。	
友だちの町とつなげて、ねん土をいろいろな形に変えたり、組み合わせたりしながらみんなで住んでみたい町をつくろう。(学習課題に下線部を付け足す)			
25分	○ 班で町をつなげて、大きな町をつくる。	〈場の環境〉 生活班のグループで町をつなげて、大きな町を作る。 ◇町をつくりながら、形の感じや形の組み合わせによる感じが分かっている。【知・技】(知) ◇表したいことに合わせて、粘土の形を変えたり、用具を使ったりして表し方を工夫している 【知・技】(技)	
終末 10分	○ 手を洗い、作品カードの記入を行う。	・ 自分が住みたい町の説明を書いて、次の時間の鑑賞の際に活用できるようにする。	作品カード

7 本時の指導 (3時間目/全3時間)

(1) 目標

自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (◇評価)	資料(教材教具)等
導入 10分	○自分が住みたい町について作品を通して班で説明し合う。	・2つの作品を全体に見せて、工夫したことなどを発言してもらうことにより、それぞれの作品の良さや面白さを主体的に感じ取るように促す。	大型テレビ
みんなでつくった住んでみたい町を散歩しながら、作品のよさやおもしろさを感じ取ろう			
展開 20分	○自分が町に入ったつもりで鑑賞し、作品の良さや面白さを感じ取る。	・縮小した全身像の自分を用いて、上から見たり、下から見たりといろいろな角度から町を見て楽しむようにする。 ・作品の良さを見付けにくい児童には、形の面白さや用具の使い方などに着目するように促す。 ◇自分たちの作品の造形的なよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 【思・判・表】(鑑) ◇進んで粘土で住んでみたい町を表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 【態】	縮小した全身の写真 (前題材「小さな自分のお気に入り」で使用したもの)
終末 15分	○本時の振り返りを行う。	・振り返りの視点を示し、振り返りシートに書かせる。	振り返りシート
振り返りの例 ・〇〇さんがかきべらをいろいろな方向から使って面白い形を作っていました。 ・友達の作品を見て、未来の町を形が揃った建物を並べて表していて、とても綺麗でした。 ・町に川があった方がいいよということで、一緒に橋をつくったり町をつなげたりすることができました。			

図画工作 ワークシート①

3年 組 番 名前

「ねん土マイタウン」

1. 町の名前

--

2. 町にあるものや町でやってみたいこと

--

3. 工夫したところ

4. ふりかえり

①すんでみたい町をつくることができましたか

どれか1つに ○をつけよう	よくできた	まあまあできた
	あまりできなかった	よくできなかった

②今日のじゅぎょうでわかったこと、気づいたこと、思ったこと

図画工作 ワークシート②

3年 組 番 名前

「ねん土マイタウン」

1. 友だちのさくひんをおたがいに見合おう。

友だちの名前	友だちのさくひんのよいところ、おもしろいと思ったところ など

2. ふりかえり

①友だちのさくひんのよいところやおもしろいところを見つけることができましたか

どれか1つに ○をつけよう	よくできた	まあまあできた
	あまりできなかった	よくできなかった

②今日のじゅぎょうでわかったこと、気づいたこと、思ったこと

図画工作 さくひんカード

3年 組 番 名前

「ねん土マイタウン」

町の名前

町のじまん

【補助資料5】児童を対象に行った質問紙調査

I 質問紙調査の概要

- 1 調査名 図画工作科に関するアンケート
- 2 目的 題材構想シートの活用前後における児童の意識の変容について調査し、題材構想シートの有用性について検証を図る。
- 3 対象 北上市立江釣子小学校 3年1組 30名

II 質問紙調査の項目

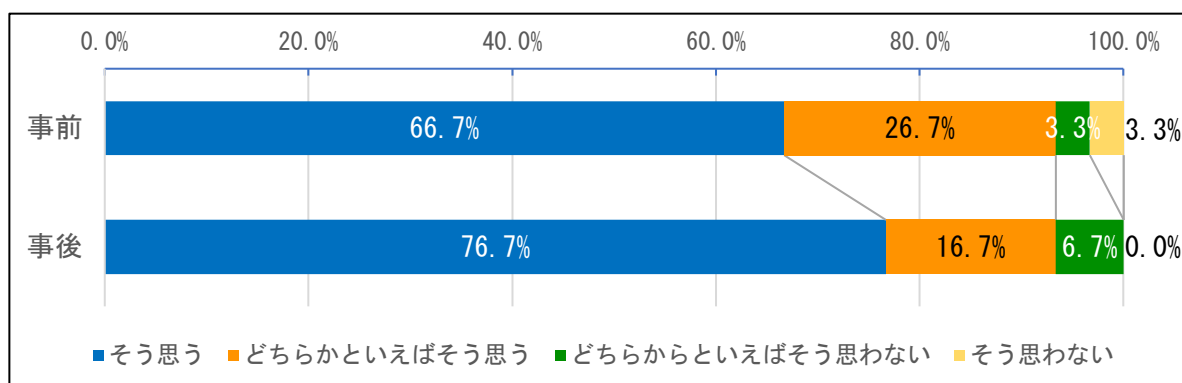
	質問項目	関連する資質・能力等	χ^2 検定
1	図画工作科の ^{がくしゅう} 学習は好きですか。	教科に対する関心	ns
2	絵をかくことは好きですか。	絵に対する関心	ns
3	ねんどなどで ^{さくひん} 作品をつくることは好きですか。	立体に対する関心	ns
4	(使うものや遊ぶものなど) 工作することは好きですか。	工作に対する関心	ns
5	ざいりょうにふれながらどういうふう ^{あらわ} に表そうか考えることは好きですか。	造形遊びに対する関心	ns
6	ざいりょうにふれていると ^{あらわ} 表したいことを思いつくことができますか。	造形遊びにおける「思考力、判断力、表現力等」の育成	ns
7	^{さいきん} 最近の図画工作の時間に、 ^{あらわ} 表したいことを思いつくことができましたか。	絵や立体、工作における「思考力、判断力、表現力等」の育成	ns
8	^{さいきん} 最近の図画工作の時間に、みんながおどろくようなアイデアや自分にとって新しいアイデアを思いつくことができましたか。	A表現における主体的に学習に取り組む態度	*
9	^{さいきん} 最近の図画工作の時間に、先生の言葉から、 ^{あらわ} 表したいことを思いつくことができましたか	先生からの問いから思い付いたり想像したりする	*
10	^{さいきん} 最近の図画工作の時間に、友だちとの話し合いから、 ^{あらわ} 表したいことを思いつくことができましたか	友達との関わりから思い付いたり想像したりする	ns
11	^{さいきん} 最近の図画工作の時間に、友だちとの話し合いがなくても自分で ^{あらわ} 表したいことを思いつくことができましたか	人的環境以外との関わり	ns
12	^{さいきん} 最近の図画工作の時間に、友だちの意見や作品のよさに気づくことはできましたか。	B鑑賞における主体的に学習に取り組む態度	ns

なお、グラフの有意差は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という4項目で、 χ^2 検定で求めた。その結果、質問項目8と質問項目9において有意差が認められた。その他の質問項目で有意差が認められなかった要因は、調査対象が30人と少なく、実践前後の調査において増減が少ないためであると考えられる。

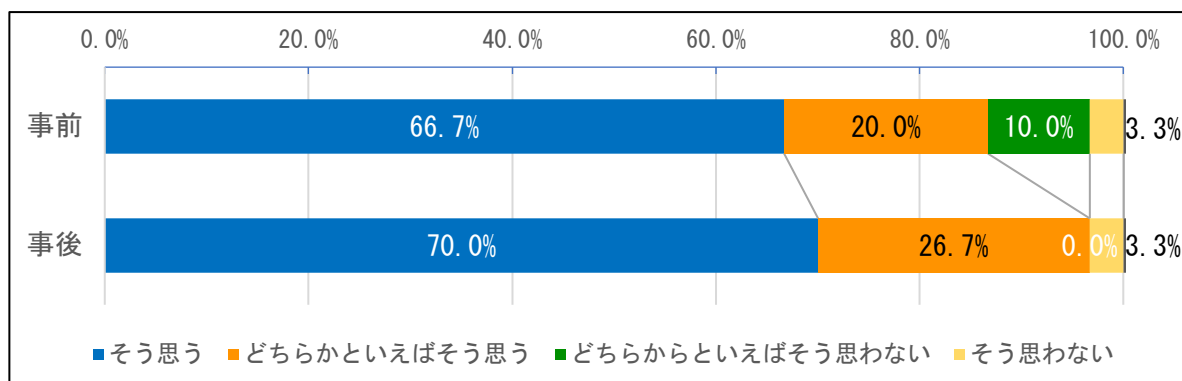
ns 有意ではない * $p < .05$ で有意差あり ** $p < .01$ で有意差あり

Ⅲ 調査結果 (N=30)

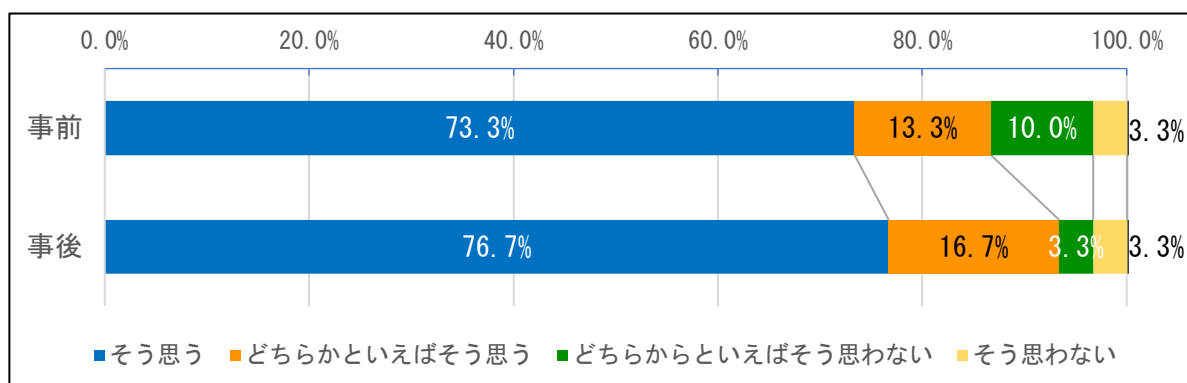
1 図画工作科の学習は、好きですか。



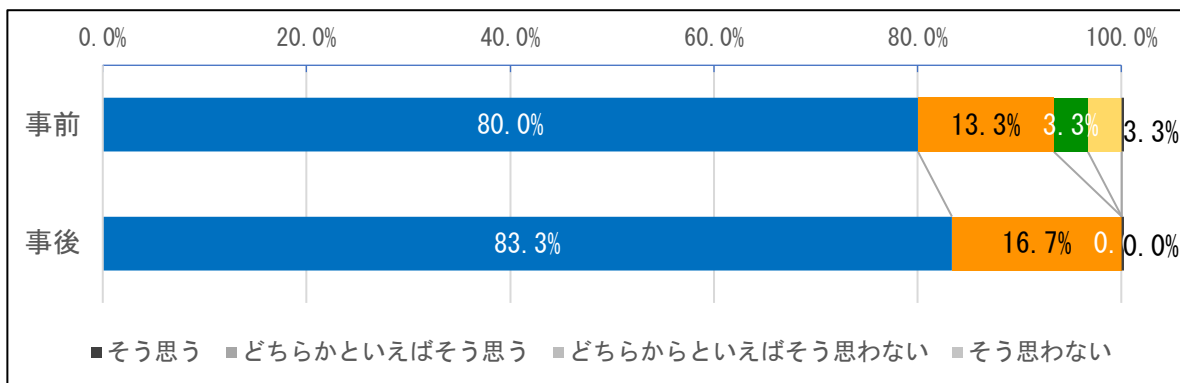
2 絵をかくことは、好きですか。



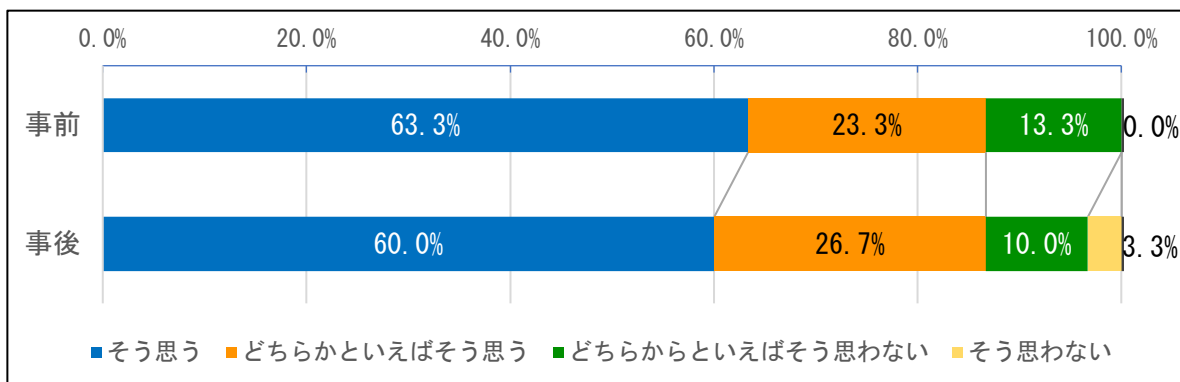
3 ねんどなどで作品をつくることは、好きですか。



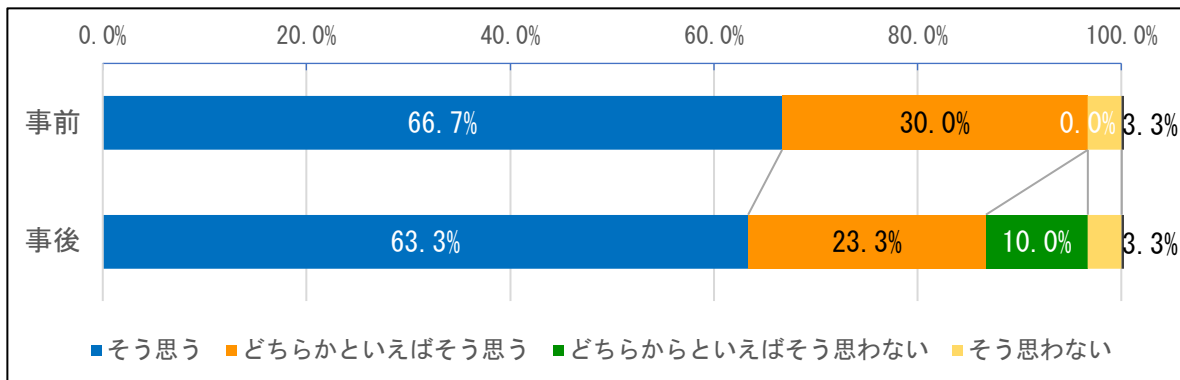
4 (使うものや遊ぶものなど) 工作することは、好きですか。



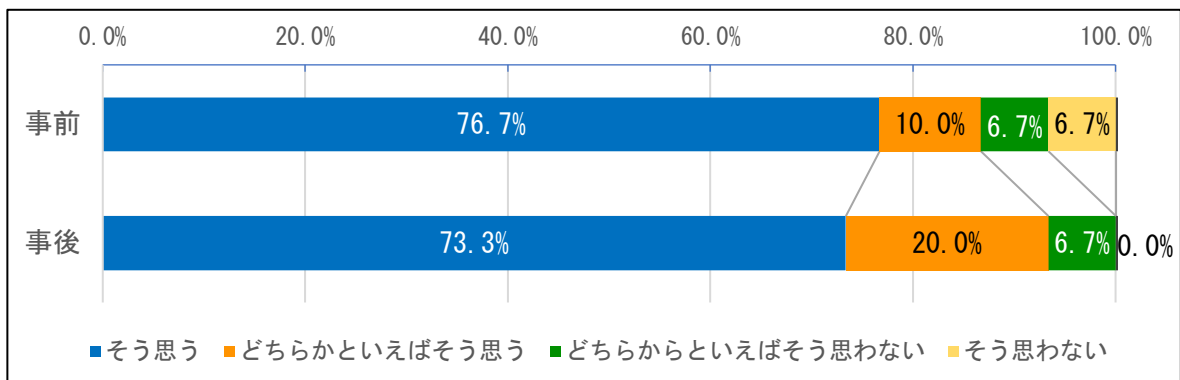
5 ざいりょうにふれながらどのように表そうか考えることは好きですか。



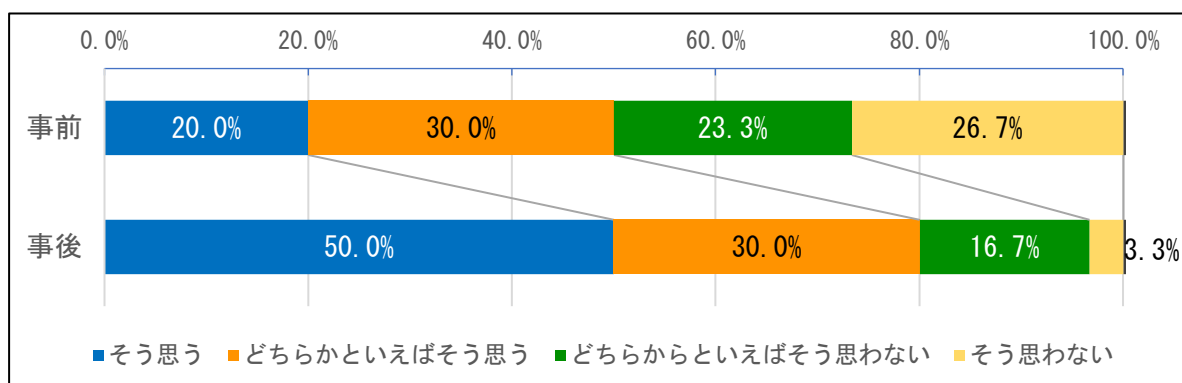
6 最近の図画工作の時間に、ざいりょうにふれていると表したいことを思い出すことができましたか。



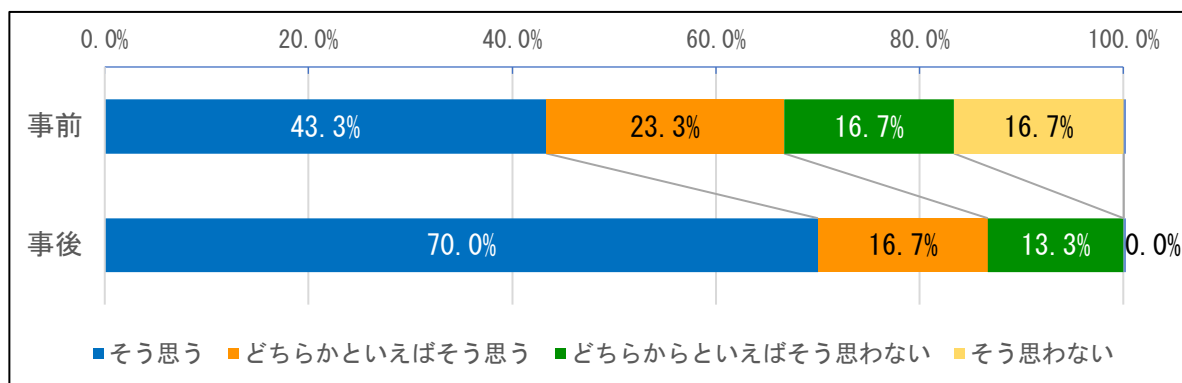
7 最近の図画工作の時間に、表したいことを思い出すことができましたか。



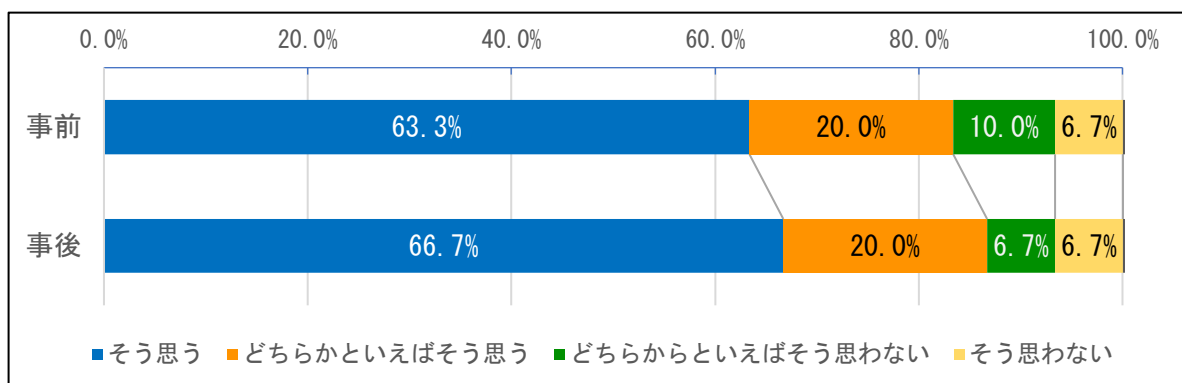
- 8 最近の図画工作の時間に、みんながおどろくようなアイデアを思いついたり、いろいろためしたりすることができましたか。



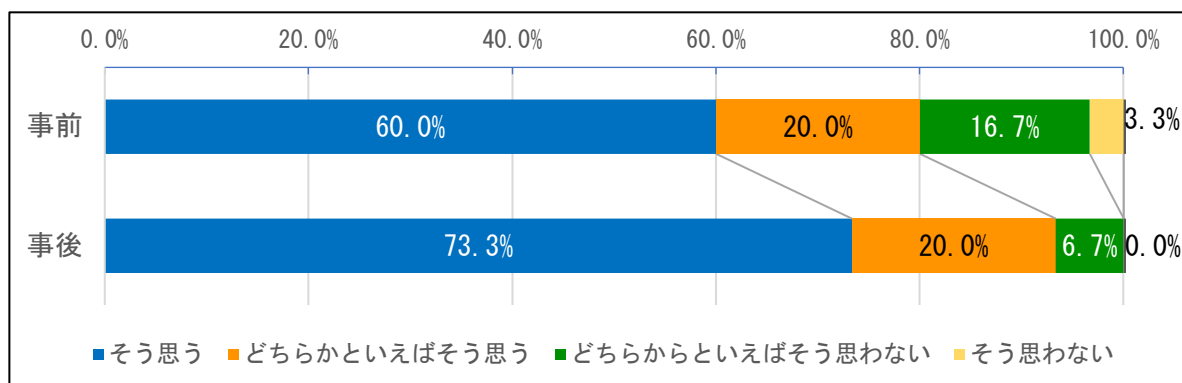
- 9 最近の図画工作の時間に、先生の言葉から、表したいことを思いつくことができましたか。



- 10 最近の図画工作の時間に、ともだちとの話し合いから、表したいことを思いつくことができましたか。



- 11 最近の図画工作の時間に、友だちとの話し合いがなくても自分で表したいことを思いつくことができましたか。



12 最近の図画工作の時間に、友だちの意見や作品のよさに気づくことができましたか。

